

## 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101383		
法人名	有限会社 コナン		
事業所名	グループホーム大森の家		
所在地 (電話番号)	島根県松江市宍道町上来待204番地4 (電話)0852-66-7020		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター3階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月10日

## 【情報提供票より】(19年11月1日)

## (1)組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人	非常勤 6人 常勤換算 12、23人

## (2)建物概要

建物形態	併設型	新築
建物構造	木造瓦葺平屋建建築	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1日当たり 円
	または1日当たり 1300 円		

## (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	松江市国民健康保険来待診療所 田中医院 昭和歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園の中の高台に建つ、開設1年8ヶ月のホームである。職員は新しい理念を基に地域に根ざした大森の家の一家族として、居心地のいい家庭づくりを目指している。地域に積極的に出かけ行事に参加したり、認知症を理解してもらえるように「認知症サポーター養成講習会」を開催してもらい会場になったりしている。利用者の今持てる力を維持できるよう見守り、支え、支えられる関係作り、心のこもったケアに心がけ課題に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価は、ユニットリーダーを中心に会議でみんなで結果を再点検し、取り組み「職場会議の定例化」「希望にそった入浴支援」「職員を育てるとりくみ」「地域との交流」等、改善された。書類の整備や、鍵をかけない工夫は継続課題。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の項目を少しづつに分けて、各グループ(3~4名)に配り、意見を出しみんなで全項目に係わりながらまとめた。次に気づきや改善することをまとめ、改善できることから取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回開催され、ホームの行事や予定、日々の暮らしぶり、外部評価結果、研修報告などが報告され、意見や情報交換の場所になり、地域の催しものの案内を受けたり、事業所の情報を発信している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会、日ごろの面会時や電話連絡の時に積極的に意見や要望を聞くようにしているが、なかなか出てこない。意見があった時は、家庭を訪問して話しを聞くなど声が出やすいように工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭、納涼祭、音楽会などに参加したり、近くの幼稚園児や小学生、ボランティアの人達と積極的に交流している。「大森かわら版」は3地区に配布し、事業所の情報を発信し、認知症やグループホームを理解してもらおう一つ方法となっている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員が検討して分かりやすい表現の理念に作り直し、玄関や事務室に掲示して、日々の支援に役立てている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員全員で唱和し、カンファレンス、会議等で共有し、問題発生時には、常に理念に立ち返り、理念に沿っているのか、今、何が大切なのかを考え実践している。	○	利用者の権利の明文化と、説明書やパンフレットなどの実態にそぐわない箇所の見直しを検討していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月大森かわら版を近くの3地区に配布したり、地区の納涼祭、文化祭などに参加したり、クリスマス会や散歩の途中に幼稚園児に来て貰ったり、ホームで「認知症サポーター養成講習会」の場所を提供した、地域の人達と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善項目は管理者を中心に会議でひとつひとつ話し合い、計画を立てて改善に取り組んだ。今回の自己評価は項目を分担し意見を出し、それをみんなでまとめて、できていること、できていないこと、改善していくことなど確認をした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。外部評価結果、年間計画、地域やボランティアさんとの活動報告や職員の研修報告、協力医院の先生の話など、開催時期に応じた議題の意見交換が行われ、その意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話をしたり、足繁く通い情報を貰ったり、相談したりしている。宍道町と協力して「認知症にやさしい町づくり」に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりや、職員の紹介、介護の豆知識などを知らせる「大森かわら版」、管理者からのお便り、担当者からのひとり一人への情報のお手紙、金銭管理、は毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時、訪問時には何でも言いやすい雰囲気作りをしている。遠方の方には電話で意見、相談、苦情を聞きだしているがなかなか出てこない。	○	引き続き、訪問時の対応やアンケート、気軽に伝えられる機会、家族同士の意見の交流を行ない、それらを運営に反映されるよう期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間で、入居者も職員も交流があり、顔馴染みなので移動時のダメージはほとんど無い、離職の場合には「別れ」の形ではないようにし、新しい職員には利用者となじみの関係が早くもてるように気配りしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	改善取り組み項目の第一に掲げ、個々に応じた各種研修に交代で参加できるよう研修機会を設け、参加後は、会議で報告し、研修の共有を図って、職員全員の質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の医療福祉関係者とのワーキングスタッフ会議がふた月に1回開催され、交流する機会が設けられている。開設時には職員も他のホームの見学などの研修に行ったが、現在は行われていない。	○	職員にも他の同業者との相互訪問や交流会に参加できる機会を設けていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から、本人や家族の人や前のケアマネさんに訪問してもらったりして、職員や雰囲気になじめるようにしている。併設の認知デイサービスから馴染みの関係作りをして入居した方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は間引きの仕方を聞いたり、昔からの慣わしや言い伝えを教えてもらったり、暮らしの中で自然と、共に支え合える関係作りができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉やつぶやき、しぐさなどから、また意思疎通が困難な人の中には、カンファレンスで小さな気づきをみんなが出し合い思いや意向の把握に試行錯誤しながら努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画立案の過程を大切に、職員全員で情報の共有化に努め介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きな見直しは3ヶ月一回であるが、日々ケアプランのチェック項目を確認するシステムがあり、暮らしぶりが急変した時はその都度見直し、利用者一人ひとりの状況に即した介護計画の見直しを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診や入院、早期退院など、主治医と協力しながらできるだけホームでの生活ができるように支援している。定期的な医療機関への受診は家族の付き添いとなっているが、緊急時などは柔軟に支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医で医療を受けられるようになっている。利用者の多くは協力医療機関を利用し、1か月1回定期的に往診来てもらっている。医院の医師や看護師とは日頃から、何でも相談できる関係づくりができています。緊急時や入院時も適切な支援を受けている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り看護の指針や、家族との同意書も準備され、家族、職員、協力医かかりつけ医と相談しながら対応していくことが確認されているが、実践は今後の課題である。	○	事業所が対応し得る最大のケアについて整理し、職員の教育・研修、医療機関や家族の人達と話し合いを重ね、方針を共有化し、具体的な体制づくりを進められるように期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のカンファレンスの中で、利用者の気持ちや誇りを傷つけることの無いよう言葉の内容や語調に気をつけるように取り組んでいる。トイレの誘導時は特に気を使いさりげなく支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	併設のデイサービスがある日は一緒に過ごしたり、1日の流れは大体決まっているが、利用者の思いを大切に、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、片づけを利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。職員も同じ食卓を囲んで食事をしている。	○	さらに、利用者の状態に配慮しながら、ゆったりとした雰囲気での食事を楽しめる環境づくりに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声をかけながら利用者の希望に沿うように入浴支援をしている。夜間の入浴も希望があれば対応できる。風呂嫌いな方が深夜急に入浴を希望され、入浴支援をしたこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、間引き、食事の盛り付けや、後片付け、食器拭き、おぼん拭き、洗濯物たたむこと、など職員は重ならないよう配慮しそれぞれの特技を発揮できる場を作っている。時々温泉や外出の帰りに外食を楽しむ支援もしている。	○	さらに、利用者の力が発揮出来るような場所や、場面を作られることに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に庭で寛いだり、日向ぼっこをしたり、散歩へでかけたり、戸外に出かけられるよう支援をしている。		
<b>と害に</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外からは自由に入れるが、中からはボタンを押さないと自動ドアが開かない。	○	地域の協力や、馴染みの関係作りが、出来つつあり、鍵をかけないケアに向けて取り組まれているが、実現することに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所となっている。避難訓練もおこなわれ、ホームの隣家には協力要請をしている。	○	災害時の備品の準備と、地域の人達の参加と協力を得ながら合同避難訓練に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取は食事やお茶のとき把握している。お茶やコーヒーが嫌いな人にはスポーツドリンクなど好きなものを聞き出して水分が確保できるようにしている。食事量も記録し、症状や状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、窓が大きくとられ、明るい木の温もりのあるホールで、一角には畳みコーナーがあり、コタツを囲んだり、ひと眠りしたりすることができる。隣の台所からは、食事ときには食欲をそそる香りが流れてくる。居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真や使い慣れた小物が置かれ、お茶のみコーナーがあったりしてその人らしい居室もあるが、なじみの物品の少ない部屋もある。	○	利用者にとって居室が一番安心ができ、寛げる場所となるように、家族への協力を求め、本人の意向を聞きながら居心地のいい居室造り取り組まれることに期待する。